

令和7年度 特設教科「国際・情報」評価と考察

1 小学生・中学生の意識調査について ※令和8年度全国学力・学習状況調査より

(1) 小学校6年生

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	英語の勉強は得意ですか。	77.8	60.8	59.8
2	英語の勉強は好きですか。	83.3	69.5	66.7
3	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか。	47.3	43.0	45.4
4	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。	38.9	39.5	46.2

*数値は肯定的な回答した児童の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
5	家庭学習の課題として、どの程度、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を開いたり英語を話す練習をしたりしていますか。	5.6	9.8	14.0

*数値は「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童の%

「英語の勉強は得意」と回答した児童が77.8%で全国59.8%を18.0ポイント、「英語の勉強は好き」が83.3%で全国66.7%を16.6ポイント上回っており、英語学習に対する肯定的な意識が非常に高いことが大きな成果である。これまでの授業を通して、英語を使う楽しさやコミュニケーションへの自信が育まれていることがうかがえる。一方、「将来、積極的に英語を使いたい」は47.3%と全国をやや上回る程度であり、「授業以外で英語を使う機会」は38.9%と全国46.2%を下回っている。また、家庭学習でICTを活用して英語を開いたり話したりする機会も5.6%と、全国14.0%を大きく下回っている。

(2) 中学校2・3年生

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	英語の勉強は得意ですか。	29.4	38.7	39.5
2	英語の勉強は好きですか。	33.3	51.8	51.2
3	英語の授業の内容はよく分かりますか。	54.9	60.8	54.2
4	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	82.4	87.2	87.6
5	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか。	17.7	31.6	34.1
6	キーボードを使って英語を書くことができますか。	70.6	73.9	76.7
7	これまで、学校の授業やそのための学習以外で日常的に英語を使う機会が十分にありましたか。	27.4	30.4	36.6

*数値は肯定的な回答した児童の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
8	家庭学習の課題として、どの程度、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を開いたり英語を話す練習をしたりしていますか。	3.9	7.8	10.2

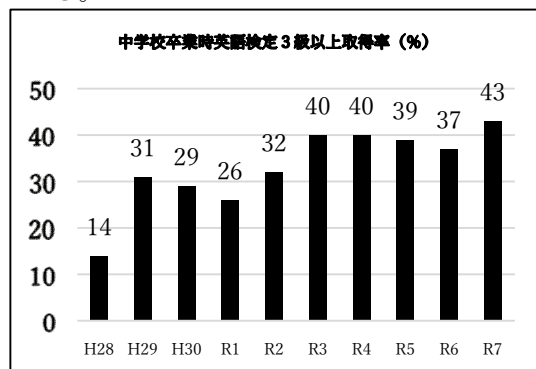
*数値は「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童の%

「英語の授業の内容はよく分かる」が54.9%で全国54.2%と同程度であり、「英語は将来役に立つ」も82.4%と、多くの生徒が英語学習の必要性を認識していることは成果として捉えられる。一方、「英語の勉強は得意」は29.4%で全国39.5%、「英語の勉強は好き」は33.3%で全国51.2%と大きく下回っている。特に、「授業はある程度分かる」「将来役に立つことも分かっている」が、「好き・得意」という実感には結び付いていないことが分かった。また、「将来、積極的に英語を使いたい」、「学習以外で英語を使う」、「家庭でICTを活用する機会」も全国を下回っている。

【小・中学校を通じた成果と課題】

小中学校を通して、英語学習の必要性や有用性への理解が見られ、小学校では「英語が好き・得意」という肯定的な意識、中学校では「将来の有用性」が高いと感じる割合が高い結果となった。

一方、小中ともに、授業以外で日常的に英語を使用する機会が全国平均を下回っていることから、学校外で英語に触れ、実際に使う機会の確保が必要である。今後は、小中学校の「分かる」から「できる・使いたい」への発展の場面を模索していきたい。



2 「国際」について ※教研式標準学力検査 NRT 結果より

(1) 小学6年生

No 1	質問項目 偏差値5段階比	1	2	3	4	5
	パーセント	0	13	38	38	13
	人数	0	5	15	15	5

No 2	質問項目 大領域別	正答率		全国比
		学年	全国	
	① 聞くこと	74.0	69.2	107
	② 話すこと	79.8	69.4	115
	③ 読むこと	72.3	68.5	106
	④ 書くこと	64.3	58.6	110

No 3	質問項目 中領域別	正答率		全国比
		学年	全国	
	① 語の内容などを聞き取ること	85.4	80.0	107
	② 日常生活の情報を聞き取ること	66.9	65.3	102
	③ 会話や説明の概要を聞き取ること	68.1	62.3	109
	④ 話すことの基本的な表現	92.5	75.4	123
	⑤ やり取りをしながら話すこと	74.3	69.1	108
	⑥ 身近なことを発表すること	76.9	63.9	120
	⑦ 語の内容を読み取ること	72.5	73.1	99
	⑧ 基本的な文を読み取ること	74.7	66.4	113
	⑨ 英文を絵や情報と結びつけること	68.1	67.8	100
	⑩ 語句を書くこと	72.5	58.8	123
	⑪ 語順や字間を意識して書くこと	79.6	70.4	113
	⑫ 自分に関する英語を書くこと	29.4	37.6	78

No 4	質問項目 観点別	全国比		全国比
		学年	全国	
	知識・技能	77.7	70.8	110
	思考・判断・表現	69.3	63.6	109

大領域別のすべての項目で全国平均を上回っており、特に「話すこと」は全国比115と高く、英語を用いて表現する力に一定の成果が見られる。また、「知識・技能」は全国比110、「思考・判断・表現」は109であり、バランスよく力が身に付いている。

一方、「自分に関する英語を書くこと」は正答率29.4%、全国比78と低くなっている。「語句を書くこと」や「語順や字間を意識して書くこと」は全国平均を上回っていることから、書く技能そのものではなく、既習の語句や表現を活用して、自分の考えや自分自身について英文で表現することに課題があると考えられる。

(2) 中学校1年生

No 1	質問項目 5段階比	1	2	3	4	5
	パーセント	6	26	32	23	13
	人数	3	12	15	11	6

No 2	質問項目 大領域別	正答率		全国比
		学年	全国	
	① 聞くこと	60.9	58.7	104
	② 話すこと	65.1	56.5	115
	③ 読むこと	60.3	57.1	106
	④ 書くこと	42.6	46.2	92

No 3	質問項目 中領域別	正答率		全国比
		学年	全国	
	① 語の内容などを聞き取ること	60.1	53.8	112
	② 日常生活の情報を聞き取ること	58.3	59.9	97
	③ 会話や説明の概要を聞き取ること	64.5	60.7	106
	④ 話すことの基本的な表現	61.7	43.5	142
	⑤ やり取りをしながら話すこと	74.7	65.1	115
	⑥ 身近なことを発表すること	53.2	53.0	100

△	語の内容を読み取ること	73.2	70.6	104
△	基本的な文を読み取ること	60.9	53.4	114
△	英文を絵や情報と結びつけること	46.8	47.2	99
◇	語句を書くこと	44.9	51.4	87
◇	語順や字間を意識して書くこと	39.0	38.3	102

No 4	質問項目 観点別	全国比		全国比
		学年	全国	
	知識・技能	65.3	59.0	111
	思考・判断・表現	52.7	52.1	101

(3) 中学校2年生

No 1	質問項目 偏差値5段階比	1	2	3	4	5
	パーセント	8	29	40	15	8
	人数	4	13	21	8	4

No 2	質問項目 大領域別	正答率		全国比
		学年	全国	
	① 聞くこと	67.4	63.3	106
	② 話すこと	51.1	59.2	86
	△ 読むこと	55.8	58.3	96
	◇ 書くこと	45.6	55.2	83

No 3	質問項目 中領域別	正答率		全国比
		学年	全国比	
	① 語の内容などを聞き取ること	72.6	67.3	108
	② 日常生活の情報を聞き取ること	62.8	60.8	103
	③ 会話や説明の概要を聞き取ること	71.2	64.3	111
	④ 話すことの基本的な表現	54.3	60.0	91
	⑤ やり取りをしながら話すこと	44.3	56.9	78
	⑥ 身近なことを発表すること	57.7	61.8	93
	△ 語の内容を読み取ること	56.4	61.7	91
	△ 基本的な文を読み取ること	71.2	68.2	104
	△ 英文を絵や情報と結びつけること	37.3	44.4	84
	◇ 語句を書くこと	48.5	58.0	84
	◇ 語順や字間を意識して書くこと	44.0	53.7	82

No 4	質問項目 観点別	全国比		全国比
		学年	全国	
	知識・技能	60.1	63.5	95
	思考・判断・表現	53.6	57.0	94

中学1年生では、「聞く・話す・読む」の3領域で全国平均を上回り、特に「話すことの基本的な表現」は全国比142、「やり取りをしながら話すこと」は115と、英語によるコミュニケーションに強みが見られる。一方、中学2年生では、「話す・読む・書く」の3領域が全国平均を下回り、「やり取りをしながら話すこと」は全国比78、「語順や字間を意識して書くこと」は82となっている。学年による違いはあるものの、小学校段階で見られた「書いて表現すること」の課題が、中学校でも一部継続していることがうかがえる。

【小・中学校を通した成果と課題】

今回の結果から、「英語を話す力・やり取りする力」が身につけていることが挙げられ、これは、小学校で継続して実施している「ときどき Communication Time」を通した思考力・表現力の育成や、保育園からの英語教育の実施など、早期の段階から英語に触れ、実際に使う機会を継続的に設けてきたことがあると考えられる。また、英語教育推進員の配置による専門的な知識を有する人材が授業に関わることで、児童への支援だけでなく、教員自身の指導力向上にもつながっている。

中学校においても、オンラインによる海外交流学习を見据えた計画的な指導、ALTとのインタビュー活動、英語によるスピーチ発表など、実際に英語を使うことを意識した学習活動に計画的に取り組んできた。こうした取組が、英語を使って伝えようとする意欲や積極性、自発性の育成につながっていると考えられる。

さらに、身に付けた英語力を発揮する機会として、本町では英語検定への積極的な挑戦を支援している。受験料への補助を行うことで、受験に対する心理的・経済的な負担を軽減し、毎年多くの生徒が受

験している。そのため、白い森学習支援センターにおいて、受験を希望する生徒を対象とした講座も開設している。

一方、小・中学校を通して取り組むべき課題として、「習得した英語を活用し、自分の考えや思いを書いて表現する力」の育成が挙げられる。書く活動だけを単独で行うのではなく、「話す → やり取りする → 書く」という一連の学習過程を、小・中学校の「国際」の授業において共通して意識していくことが重要である。例えば、「話した内容を英文でまとめる」「読んだ英文について自分の考えを書く」等の活動を取り入れることで、「聞く・読む・話す」と「書く」を関連付けた学習を進めることができる。今後は、本町の強みである保小中高を通した系統的・体系的な国際教育を生かしながら、「英語を使って自分の考えを表現する力」の育成につなげていくことが重要である。

2 「情報」について ※令和8年度全国学力・学習状況調査より

(1) 小学6年生

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	5年生までに受けた授業でPC、タブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか	61.1 【65.0】	9.7 【12.9】	20.5 【24.5】

*数値は「ほぼ毎日」と回答した児童の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
2	自分が・タブレットなどのICT機器で文章を作成できると思いますか。	86.1 【87.5】	77.0 【29.5】	78.9 【46.7】
3	インターネットを使って情報収集できると思いますか。	91.7 【97.5】	85.4 【90.0】	84.9 【89.8】
4	自分が・タブレットなどのICT機器を使って情報整理（図、表、グラフ思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。	94.4 【97.5】	67.8 【90.0】	68.7 【89.8】
5	自分が・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成できると思いますか。	88.9 【85.0】	74.2 【66.3】	74.6 【69.3】

*数値は肯定的な回答した生徒の% 【 】内の数値は昨年度小学校6年生の数値

No	質問項目	本町	山形県	全国
6	学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれぐらいの時間PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊び等の目的に使う時間は除く。）	41.7 【35.0】	28.4 【32.5】	31.2 【31.6】

*数値は「30分以上」と回答した生徒の% 【 】内の数値は昨年度小学校6年生の数値

授業におけるICT機器の活用頻度が高く、全国平均を大きく上回ったことから、日常的なICT活用が定着している様子がうかがえる。また、「文章作成」「情報収集・整理」「資料作成」といった情報活用能力に関する自己評価はいずれも全国平均を上回っている。さらに、授業以外の家庭学習でもICTが学習ツールとして活用されている結果となった。

今後は、単にICT機器を活用するだけではなく、情報を比較・分析・整理等の情報活用能力の育成を意識した学習を一層充実させていく必要がある。また、探究的な学習と関連させながら、ICTを「使うもの」から「学びを深めるためのもの」へとつなげる授業改善を推進するとともに、一貫教育による情報活用能力の育成を今後も継続していくことが重要である。

(2) 中学3年生

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	1, 2年生の時に受けた授業でPC、タブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか	51.0 【62.8】	38.6 【36.8】	55.1 【53.2】
2	自分が・タブレットなどのICT機器で文章を作成できると思いますか。	96.1 【90.7】	86.0 【83.1】	84.8 【83.6】
3	インターネットを使って情報収集できると思いますか。	92.1 【95.4】	92.7 【92.6】	90.9 【91.5】
4	自分が・タブレットなどのICT機器を使って情報整理（図、表、グラフ思考ツールなどを使ってまとめる）ができると思いますか。	62.7 【60.5】	68.9 【62.2】	69.4 【63.3】
5	自分が・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成できると思いますか。	70.6 【79.0】	82.4 【76.7】	80.0 【76.6】

*数値は肯定的な回答した生徒の% 【 】内の数値は昨年度中学3年生の数値

No	質問項目	本町	山形県	全国
----	------	----	-----	----

6	学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれぐらいの時間PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊び等の目的に使う時間は除く。）	39.2 【35.0】	33.0 【32.5】	32.4 【31.6】
---	--	----------------	----------------	----------------

*数値は「30分以上」と回答した生徒の% 【 】内の数値は昨年度3年生の数値

授業におけるICT機器の活用頻度は県平均を上回るものの、全国平均をやや下回る結果となった。一方、「文章を作成できる」と回答した割合は全国平均を大きく上回っているが、「情報整理」「資料作成」については下回る結果となり、相手に分かりやすく伝える力の育成には課題が見られる。一方で、授業以外にICT機器を学習に活用する割合は39.2%と全国平均を上回っており、家庭学習におけるICTの活用は着実に進んでいる結果となった。

今後は、ICTを活用して情報を収集するだけでなく、複数の情報を整理し、分かりやすく表現・発信する能力の育成を進めていくことが必要である。

【小・中学校を通じた成果と課題】

小・中学校を通して、授業や家庭学習におけるICT活用が進み、文章作成など、ICTを活用するための基礎的な力が身に付いていることが分かった。一方、中学校では、授業におけるICTの活用頻度や、収集した情報を整理し、資料としてまとめる力に課題が見られた。

今後は、ICTを用いて情報を収集するだけでなく、必要な情報を比較・分析・整理し、相手や目的に応じて分かりやすく表現・発信する情報活用能力を育成していく必要がある。そのため、「白い森学習」等の探究的な学習においてICTを積極的に活用し、児童生徒が多様な情報に触れ、それらを適切に選択・活用する学習機会を計画的に設定していくことが重要である。また、こうした力を一時的な取組としてではなく、小・中学校を通して発達段階に応じて系統的・体系的に育成していくことが求められる。